

今年のアドベント(十一月二十八日〜十二月二十四日)が始まりました。「アドベント」はラテン語の「アドベントゥス」由来の言葉で、「到来」を意味します。つまり、イエスの到来を意味しています。

アドベントは、イエス様の誕生を待ち望み、準備する期間のことで、教派によって名前が異なりますが、聖公会では「降臨節」という言い方もします。

教会ではアドベントクランツと呼ばれる四本のろうそくに、一週ごとに一本ずつ火がともされていきます。二十八日に一本目、次の週の日曜日に二本目というようにともしていき、二十五日を迎える週の日曜日に、四本目のろうそくに火がともされます。

十一月二十九日、月曜日の朝礼で、子どもたちに次のような話をいたしました。



今から八十年以上も前、一九三四年十一月二十九日、つまり今日、日本で最初のアメリカンフットボールの公式試合が行われました。試合をしたのは横濱カントリー・アスレチック・クラブという、外国の大人の人が通うスポーツクラブの人たちと、立教大学・早稲田大学・明治大学を主力とする全東京学生選抜の人たち。

この当時、ハワイなどに移民をした日本人は、子どもたちを日本の大学に留学させることが夢でした。その夢を実現して、多くの日系二世の人が憧れの日本の大学に留学しましたが、食べ物や生活環境の違い、言葉など、日本の大学になじめない人もたくさんいました。そこで、慣れない生活に苦しんでいる日系二世の人たちを元気づけようと、アメリカンフットボールの試合を企画し、そこに多くの日系二世の人が参加できるようにしました。

その中心になったのが、立教大学教授、ポール・ラッシュュさんです。ただ単に、人を呼んで、派手に試合をするというのではなく、苦しんでいる人、悲しい思いをしている人を元気づけるための試合だということところが、「立教」らしいと思いませんか。この試合のためには二万人の人が集まったそうです。

立教大学のアメリカンフットボール部や立教小学校のフラッグフットボールのクラブチームは「ラッシュヤーズ」と呼ばれています。これは、ポール・ラッシュュさんの名前がもたれているのです。そして、立教がアメリカンフットボールのルーツ校と言われているのは、このポール・ラッシュュさんの働きによるものなのです。

さて、この試合、横濱カントリー・アスレチック・クラブの大人たちは、学生の寄せ集めチームなどに負けるはずがないと思っていたのに違いありません。試合の途中、横濱カ

ントリー・アスレチック・クラブの選手が一人多いことに審判が気付き、ペナルティーを与えるなど、考えられないような珍プレーもあったようですが、何と、学生選抜チームが、二十六対0で勝利したそうです。

ポール・ラッシュュさんが大切にしていた「最善を尽くせ、そして一流たれ。」という言葉があります。これは分かりやすく言うと「とことん努力していると、人から一流と呼ばれるような人間になれるに違いない。」という事です。

アドベントが始まりました。イエス様がお生まれになったことを感謝し、お祝いするための準備期間です。ちょうど学期末のテストなども増えてくる頃です。テストだけではなく、生活態度も最善を尽くして、イエス様の誕生日の準備にふさわしい期間としたいと思います。

ポール・ラッシュュさんの言葉を英語では「Do your best, and it must be first class.」と言います。

アドベント期間、君たちがベストを尽くして、人から一流と言われるような人間を目指してくれたい限りです。

